

平成29年度 第3回津山・英田圏域保健医療対策協議会 議事録

平成29年9月28日（木）

13:30～15:30

津山保健センターホール

< 発言概要 >

（協議事項）

（1）第8次津山・英田圏域保健医療計画(案)について

- 1 保健医療圏の概況
- 2 保健医療圏の保健医療の現状
- 3 医療提供体制の構築
- 4 保健医療体制の推進
- 5 保健医療従事者の確保と資質の向上

・前回から追加及び修正があった箇所につき、一括説明

〈質疑〉

○会 長（議長）

これまでの説明について、質問、意見をお願いします。

（医師の確保及び定着促進）

○委 員

圏域内、とくに英田では、医師の確保及び定着が大きな課題です。公的病院の誘致なども考えていかななくてはいけないと思いますが、いかがでしょうか。

○県

計画(案)には記述していませんが、お話のとおり圏域内においても医師の偏在という状況はございます。周辺部において過疎が進行するなかで、医師の確保は大きな課題であると考えています。

○会 長

在宅医療を担う地域の医師の高齢化も進行しており、地域医療全般、特に内科の医療ニーズを満たせなくなりつつあり、地域医療の危機を感じています。

○県

国は、医師の数は将来的にも足りていると言っていますが、数が足りても偏在が進むと考えられるので、医師の確保及び定着については、本計画策定後も引き続き議論をしていく必要があると考えています。

(保健医療対策の推進など全般)

○委員

- ① 詳細なデータを掲載しているが、計画達成状況の検証は、どのように行っていきますか。
- ② この計画は、地域の方々に浸透できているとお考えでしょうか。そうでなければ絵に描いた餅になります。
- ③ 計画では、疾病予防的な対策が大半を占めていますが、大きなお金を投じて何かのハードを整備するとか、思い切って踏み込んでいかないと現状は打破できないと思います。

○県

- ① 3年後に中間評価、6年後に最終評価を実施することとしています。評価は、数値でも行い、この協議会の場でも報告いたします。
- ② 計画については、市町村の健康づくり計画等の策定に利用されたり、行政と関係団体との目線を合わせる役割を果たしており、地域の方々と目標を共有できているものと考えています。
- ③ この計画は施策の方向を定めるものであり、予算確保についてダイレクトに書くものではないので、ご理解をお願いします。

(救急医療)

○委員

救急医療のところでは、AEDが強調されすぎていないでしょうか。消防署では、口頭指導に取り組んでいるとお聞きしており、こうした取り組みについても記載をお願いします。

○県

修正を検討します。

(在宅医療)

○委員

リビングウィルは、在宅医療のところだけで取り上げられていますが、これは、在宅での看取りの数を増やすためのものではありません。死と向き合うことは、計画中に独立した柱立てがあってもいいほど重みのある課題だと思います。

○県

他に置き場がないため在宅医療に入れていますが、県計画との整合もあり、地域医療計画だけがリビングウィルを独立させるのは困難だと考えます。

○会長

このことについては、県の保健医療計画策定協議会でも取り上げていただくようにします。

(認知症の医療)

○委員

認知症対策については、もっと踏み込んでもらいたい。専門外来のある病院数など、指標的なものはないのでしょうか。

○県

医療サイドからは、認知症疾患医療センターとかかりつけ医が連携して、認知症患者をサポートしていく体制を取っており、既に方向性をもって進めているところですが、不十分な点があれば書き込んでまいります。

○会長

認知症サポート医の数や認知症サポーターの人数は、具体的な指標として書き込めるのではないのでしょうか。

○県

それらは市町村事業なので、市町村と協議の上、合意できれば書き込むことは可能だと思います。

(2) その他

- ・今後のスケジュール
 - ・医療・介護の体制整備に係る「協議の場」について
-) 資料により一括説明

〈質疑〉

(「協議の場」)

○会長

「協議の場」では、具体的に何を協議するのですか。

○県

県が算出した地域医療構想の実現に伴い生じる介護と在宅医療の追加的需要につき、医療、介護関係者と市町村の双方で意見交換を行うものです。

・その他

○会長

第8次圏域保健医療計画策定のための協議会開催は、今回をもって終了し、本日のご意見に関する修正は、会長と県とが協議し、計画(案)を決定するということで、会長一任とさせていただいてよろしいでしょうか

○委員

会長に一任します。(全会一致)

以上

4 閉会